

富山大学大学院理工学研究部テニュアトラック若手育成部門

News Letter

第5号



INDEX

- 部門長あいさつ..... 1
- 理工学研究部テニュアトラックセミナー..... 1
- 受賞及び論文掲載報告..... 2



大学院理工学研究部テニュアトラック
若手育成部門長

野崎 浩一

基礎科学研究は、人類共通の文化創造の一つであると同時に、科学技術イノベーションの源泉です。科学研究を推進するためには、優秀な人材の確保と支援体制の強化が極めて重要であるとの観点から、文部科学省は、第3期科学技術基本計画の指針に基づき、「若手研究者の自立的環境整備促進」プログラムを開始しました。

富山大学大学院理工学研究部では、平成24年度から文部科学省科学技術人材育成費補助金「テニュアトラック普及・定着事業(機関選抜型)」の支援を受け、部局単位でのテニュアトラック制度を導入しました。これを機に「テニュアトラック若手育成部門」を設置して、若手育成のための体制を整備しました。テニュアトラック教員の公募に当たっては、国際公募により意欲ある人材を広く求め、多くの応募者の中から、平成24年度1名、平成25年度2名(化学分野2名、生物学分野1名)のテニュアトラック教員を採用しました。この中には、自主経費で採用した1名が含まれます。

部局型のテニュアトラック制度の導入後、理工学研究部では、富山大学及び理工学研究部の構成員のご支援を得な

がら、自立して研究活動を推進できる研究環境の整備、スタートアップ経費、年間研究費、メンターの設置及び事務的支援等を行いました。さらに、テニュアトラック教員の研究の活性化と成果の発信のための学術シンポジウムの開催や、テニュアトラック教員主催のセミナー開催による学術交流を支援し、柔軟な発想力を持つ独創的な研究者の育成に取り組んできました。平成28年3月7日(月)開催の国際シンポジウムにおいては、招待講演者の招聘や企画運営をテニュアトラック教員が中心に行いました。理工学研究部のテニュアトラック制度やテニュアトラック教員の経歴、着任後の優れた研究については、ウェブサイトやニュースレターを利用して順次紹介しております。

平成29年度は本事業の最終年度であり一区切りをむかえます。今年度は国際的に評価の高いジャーナルへの論文掲載など、テニュアトラック教員たちは限られた研究期間の中で顕著な成果を挙げております。平成29年3月9日(木)には、平成28年度テニュアトラック制度シンポジウムを開催し、これまで取り組んできた事業紹介とテニュアトラック教員のこれまでの業績を紹介しますので、ご来聴賜れば幸いです。

来年度をもって本事業は終了となりますが、引き続き未来の社会を切り開く若い人材を積極的に育成することで、世界をリードする独創的な研究が展開され、さらに、富山大学を拠点とした新たな研究分野が開拓されていくことを強く期待しています。

平成28年度理工学研究部テニュアトラックセミナー開催報告

平成28年9月7日(水)15時から、理学部A239講義室において「平成28年度第1回理工学研究部テニュアトラックセミナー」を開催しました。

岡山大学理学部附属臨海実験所(日本学術振興会特別研究員RPD)の高浪景子先生を講師にお招きし、「形態学から迫る“かゆみ”の伝達と進化」と題して講演いただきました。出産・育児を経験されながら研究者として復帰されたこれまでの経歴について紹介いただいた後、かゆみ特異的な神経伝達物質について、その神経伝達経路と進化に着目した研究の発展性について大変分かりやすくお話しいただきました。

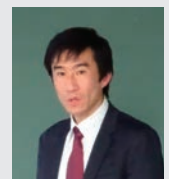


岡山大・高浪先生

(中町テニュアトラック教員)

平成29年1月17日(火)16時30分から、理学部C203講義室において「平成28年度第2回理工学研究部テニュアトラックセミナー」を開催しました。富山県立大学工学部生物工学科の村上達也教授を講師としてお招きし、「薬物送達と細胞工学を結ぶ生体材料」という演題にて講演いただきました。天然の生体材料を用いてナノ粒子薬剤を作製し薬物送達や細胞工

学に応用する、新しい製剤の概念と実例について、非常に丁寧に、分かりやすくお話しいただきました。



富山県立大・村上先生

(松村テニュアトラック教員)

受賞及び論文掲載報告

●中町テニュアトラック教員が松尾奨励賞を受賞しました。

平成28年5月13日(金)～14日(土)の会期で開催された第13回GPCR研究会にて、松尾壽之先生の御業績を賞して創設された「松尾奨励賞」を受賞しました。



●中町テニュアトラック教員らの研究グループの論文が英科学雑誌Nature Communicationsにて発表されました。

中町テニュアトラック教員らの研究グループは、涙の分泌に関わる新たな機構を発見・解明しました。涙液分泌を促進する機構が明らかになったことで、ドライアイなどの乾燥性疾患の原因解明と効果的な治療法の開発に繋がることが期待されます。また、この成果は、平成28年6月27日(月)、英科学誌「Nature Communications」にて発表されました。

雑誌名：Nature Communications

論文タイトル：PACAP suppresses dry eye signs by stimulating tear secretion

(PACAPは涙液分泌の促進によりドライアイ症状を抑制する)

著者：Tomoya Nakamachi, Hirokazu Ohtaki, Tamotsu Seki, Sachiko Yofu, Nobuyuki Kagami, Hitoshi Hashimoto, Norihito Shintani, Akemichi Baba, Laszlo Mark, Ingela Lanekoff, Peter Kiss, Jozsef Farkas, Dora Reglodi & Seiji Shioda

DOI番号：10.1038/ncomms12034



●松村テニュアトラック教員らの研究グループの論文が米科学誌Scienceにて発表されました。

松村テニュアトラック教員らの研究グループは、生命の起源におけるRNA進化機構の新たな可能性を提唱し、実験と理論により証明しました。生命の初期進化においてRNAの機能がどのように進化してきたのかはこれまで謎でしたが、グループは液滴マイクロ流体システムという最先端の技術を用いて、RNAがこれまで考えられていたよりもさらに原始的な環境で進化しうることを示しました。生命の起源という太古の昔の事柄に最先端の技術を用いた実験で挑むアプローチは極めてユニークであると同時に、RNAの新たな進化機構の確立・理解に繋がることが期待されます。この成果は、平成28年12月9日(金)、米科学誌「Science」にて発表されました。



雑誌名：Science

論文タイトル：Transient compartmentalization of RNA replicators prevents extinction due to parasites

(RNA複製体の時限的な区画化は寄生体による絶滅を防ぐ)

著者：Shigeyoshi Matsumura, Ádám Kun, Michael Ryckelynck, Faith Coldren, András Szilágyi, Fabrice Jossinet, Christian Rick, Philippe Nghe, Eörs Szathmáry, Andrew D. Griffiths

巻・号：Science, 354, 1293-1296 (2016) DOI番号：10.1126/science.aag1582

【お知らせ】

平成29年3月9日(木)13:30から、富山大学理学部多目的ホールにおいて平成28年度テニュアトラック制度シンポジウムを開催いたします。多数のご参加をお待ちしております。(参加申し込み不要)

編集後記

ニュースレター5号では、野崎部門長の挨拶をはじめ、テニュアトラック教員の受賞等の報告を掲載しました。これまでにシンポジウム、セミナー及びワークショップ等を開催し、国内外の研究者たちと積極的に交流して参りました。今後も若手研究者たちが研究に励めるよう、尽力したいと思いますので引き続きご支援とご協力のほど、よろしくお願いいたします。

News Letter 第5号 平成29年1月発行

【編集・発行】

富山大学大学院理工学研究部テニュアトラック若手育成部門

〒930-8555 富山県富山市五福3190

TEL：076-445-6545 FAX：076-445-6549

